

PlayTech 管楽器

はじめてお使いの方に

Horn



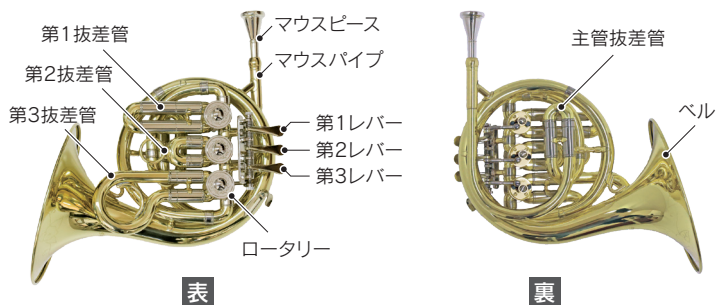
この度は、PLAYTECHホルンをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。この冊子には、基本的な取り扱い方法等を記してあります。ぜひお役立てください。

各部分の名称

■フルダブルホルン



■ポケットホルン・ハイブリッドホルン



楽器の置き方

机やテーブルなどの、平坦で安定した場所に置きます。※

ご注意

ベルが机や台からはみ出したり、ベルを下に向けて置かないでください。



※ホルン専用スタンドもあります

楽器の組み立て方

■デタッチャブルベルのセッティング

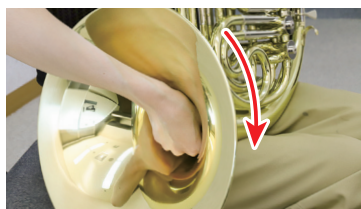
1. 本体を膝の上に乘せ、右手をベルの内部に入れ、左手で本体のスクリー一部分を持ちます。



2. ベルと本体のスクリー部分が平行になるように合わせます。

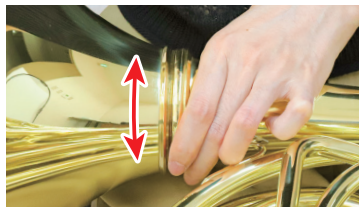


3. ベルの内側に入れた右手を優しく回します。(時計回り)



※引っ掛かりを感じた場合は、ネジのかみ合わせがずれている可能性があります。無理に回さず、やりなおしてください。

4. ベルが回らなくなるところまで回します。かみ合わせが悪い場合は反対に回して、かみ合う場所を探します。



※必要以上に強く締めすぎないように注意してください。



ご注意

ベルのふち、マウスパイプを持って回さないでください。歪みの原因になります。

演奏を始める前に

■拔差管のセットアップ

1. レバーを押しながら、拔差管を抜きます。



ご注意

下側 (B $\flat$) の拔差管を抜く際には、「第4レバー」と「対応するレバー」の両方を押してください。

2. スライドグリスを塗布します。



3. 拔差管を楽器本体に戻します。

4. はみ出てしまったグリスは、キレイに拭き取ってください。



スライドグリスは付属しておりません。別途
お買い求めください



演奏を始める前に

■ロータリーのセットアップ

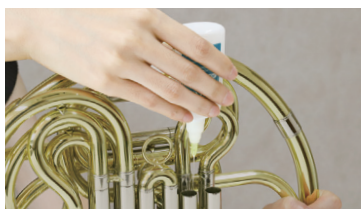
1. レバーを押しながら、拔差管を抜きます。^{※1}



ご注意

下側 (B^b) の拔差管を抜く際には、「第4レバー」と「対応するレバー」の両方を押してください。

2. ロータリーに繋がった拔差管の中にローターオイルを注油します。



ご注意

ロータリーを下にし、拔差管の内壁に付かないようにオイルを注してください。(ノズル付きオイルの使用を推奨しています)^{※2}

3. レバーを押した状態で拔差管を入れます。^{※1}

4. レバーを数回動かして、オイルを馴染ませます。



注油のポイント

4番ロータリーへの注油は、3番ロータリーに注油した後、楽器を演奏ポジションになるように向きを変え、4番へ行き渡らせます。

ローターオイルは付属しておりません。別途お買い求めください。



※1 レバーを押さずに拔差管を動かすと、管内の気圧の変化による負荷により、動作不良が起きる恐れがあります。

※2 オイルと混ざったグリスがロータリー内に入ると、動作不良の原因となります。

音の出し方

■ホルンの構え方

1. 左手は管を包み込むように持ち、小指は指掛けに、親指は第4レバーに置きます。残った指はそれぞれ第1、第2、第3レバーに置きます。



2. 右手は軽くベルの中に添えて楽器を支えます。



※第4レバーの位置は手の大きさに合わせて調節が可能です。

■マウスピースのセッティング

マウスピースを本体のマウスピースレシーバーに軽く差し込みます。



※強く押し込みすぎると抜けなくなる恐れがあります。

■音の出し方

ホルンは唇の振動を楽器に伝えることで音を鳴らします。

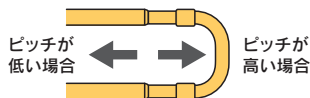
まずは、マウスピースだけで音を出す練習(バズイング)をしてみましょう。



1. マウスピースを唇に押し付けすぎないように、そっと当てます。
2. 唇は力まない程度に閉じ、上下の歯を少し開きます。
3. 始めはゆっくり息をいれ、少しずつ息の量を増やしていきます。
4. 自然に唇が震え、その振動で音を出すことができます。(唇の形は変えず、頬を膨らませないように意識します)

チューニング

拔差管を抜くとピッチ(音程)が低くなり、奥へ差し込むと高くなります。数ミリの調整がとても重要です。



■ダブルホルン

それぞれに対応した拔差管を調節してチューニングを行います。

1. 主管拔差管でB $\flat$ 管のチューニングを行います。



2. F管拔差管でF管のチューニングを行います。



3. レバーを押しながら、各ロータリーに繋がっている拔差管を5～10mm程度抜いて調節します。



■ポケットホルン

主管拔差管(チューニング管)と拔差管の位置を調節し、チューニングを行います。

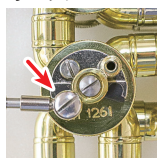


チューニングのポイント

楽器のピッチ(音程)は温度や湿度によって変化します。チューニング前によく息を吹き込んでおき、演奏時と同じ温度、湿度にします。

ダブルホルンは「F管」か「B $\flat$ 管」の設定ができます。出荷時には、オープンFの設定になっています。

オープンF



オープンB $\flat$



楽器のお手入れ

演奏後のメンテナンス

■水抜き

拔差管を抜いて、水分を出します。また、ウォーターキーからも水抜きを行います。



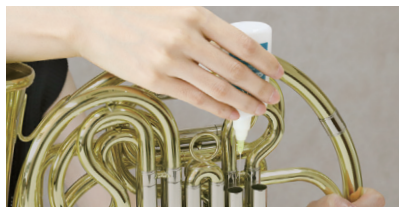
水抜きのポイント

長時間の演奏の際には、演奏中にもこまめに水抜きを行ってください。ノイズや管内の傷みの原因となる恐れがあります。

ホルンは管が入り組んでいるため、楽器を回転させると効率よく水抜きが可能です。

■ロータリーへの注油

拔差管を抜き、グリスと混ざらないように管内へ注油します。注油後はレバーを数回押し、オイルを馴染ませます。



(P.5を参照)

■表面のお手入れ

楽器用クロスを使用し、表面の指紋や皮脂を拭き取ります。



ご注意

研磨剤の含まれたクロス(ポリッシング・クロス)は、使用頻度によっては楽器を傷めてしまう恐れがあります。汚れや変色等が目立つ場合にのみご使用ください。

楽器のお手入れ

月1回のメンテナンス

■ロータリーのお手入れ

1. ロータリーバルブのキャップを外し、ローター・スピンドルオイルを注油します。



2. はみ出たオイルを拭き取ってから、キャップを戻します。レバーを数回押し、オイルを馴染ませます。



3. 各レバーの軸部に、レバーオイルを注油します。



■拔差管のお手入れ

1. レバーを操作した状態で、拔差管を抜きます。



2. クリーニングロッドの先端の穴にガーゼを通し、先端部が露出しないように巻き付けます。



3. 拔差管内の汚れを拭き取ります。



楽器のお手入れ

4. ガーゼ等を使用して、抜差管外側の汚れを拭き取ります。スライドグリスを少量手に取り、全体に塗ります。



5. レバーを操作しながら抜差管を入れ、数回動かしてスライドグリスを馴染ませます。※



6. 抜差管を戻す際に、はみ出したスライドグリスは、しっかり拭き取っておきましょう。



※レバーを操作せず抜差管を動かすと管内の気圧の変化により、動作不良が起きる恐れがあります。

フィンガリングチャート



フルダブルホルン

1	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●
2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	○	○	●	●	●	●	●	○	●	●
4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

ポケットホルン
ハイブリッドホルン

1	○●	●	○●	○●	○●	○●	○●	○	○●	○●○
2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○●○
3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○●○
4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○●○



フルダブルホルン

1	●	●	●	●	●●	●	●	●	●	●
2	○	○	○	○	○●	○	○	○	○	○
3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○

ポケットホルン
ハイブリッドホルン

1	○	○●	○●	○●	○	○	○	○	○	○
2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

株式会社サウンドハウス

〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3 TEL: 0476-89-1111 FAX: 0476-89-2222

Website <https://www.soundhouse.co.jp> E-mail shop@soundhouse.co.jp